

実践! SDGs

Sustainable Development Goals



環境汚染や貧困など、世界中で抱えている社会問題の解消を目指す取り組み「SDGs」。言葉の浸透とともに顧客ニーズも日増しに高まってきており、SDGsの取り組みは、いまやサイン・ディスプレイ業界にとって必要不可欠なものになっています。本連載では、SDGsにまつわる企業の取り組みや最新トピックスなどを紹介。よりサイン・ディスプレイ業界の実務に役立つさまざまな情報を総合商社の視点から発信していきます。

文・フジテックス

業界全体で意識高まる 3Rと多彩なリサイクル

今回のテーマは、「看板サイン×リサイクル」。リサイクルの種類とそれぞれの特徴について解説しつつ、サーマルリサイクルできる製品を活用している出力会社、フジアートの事例も交えて、より具体的に紹介していきます。

さて、2022年4月に、プラスチックごみの削減やバイオプラスチックへの置き換えを推進する新法「プラスチック資源循環促進法」がいよいよ施行されました。それをきっかけに、あらゆる業種・業界で3R（Reduce：リデュース、Reuse：リユース、Recycle：リサイクル）とRenewable（リニューアブル：再生可能資源）を意識した仕組みづくりが急務になりつつあります。

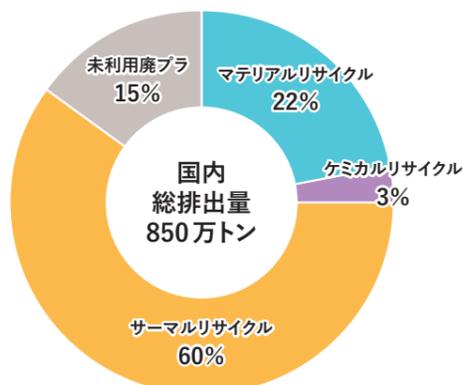
ここで推奨されているリサイクルは主に下記図の通り、「マテリアルリサイク

ル」「ケミカルリサイクル」「サーマルリサイクル」の3つに分類されます。日本の2019年のプラスチック有効利用率は85%なもの、その内訳はマテリアルリサイクルが22%、ケミカルリサイクルは3%、サーマルリサイクルは60%【図1】。それぞれどんな手法かを理解し、使い分ける必要があると言えます。

ちなみにサイン系の塩ビ製品は、ほとんどが単一素材ではなく複合材となっているため、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルは非常に難しいとされています。さらに、安易に塩ビを燃やすと塩素が発生して炉を傷める恐れもあり、サーマルリサイクルも困難です。よって、環境意識の高い大手企業や外資系の広告主からは、塩ビの代替としてリサイクル可能な非塩ビ素材を求める声が年々高まってきています。

では次に、廃プラの処理についてもお話ししていきましょう。一度使って廃棄

されたプラスチックは、原則以下の優先順位に沿って、再利用されると言われています【図2】。より分かりやすく言葉にすると、リデュース→リユース→マテリアルリサイクル→ケミカルリサイクル→サーマルリサイクル→埋立て→単純焼却といった順番になりますね。プラスチックのごみを削減させるために、できる限りのリサイクルが求められる時代になっています。



【図1】2019年に排出された850万トンのプラスチックのうち、リサイクルされたもの内訳



【図2】廃プラの優先順位。持続可能な代替品へ何度も切り替えられたのちに、最終的に焼却処分となる

出典元：プラスチック循環利用協会

- **マテリアルリサイクル**
廃棄物を新たな製品の原料として再利用する方法。同じ物になるケースもあれば、当然全く異なる製品になるケースもある。なお、原料を集める際に**事前に同一素材同士をそろえる必要があるため、分別や異物の除去を必須としている**
具体例：古紙を溶解して再生紙にする
ペットボトルを潰して繊維に加工し、服をつくる
- **ケミカルリサイクル**
廃棄物を化学合成によって他の物質に変え、その物質を原料に新たな製品をつくる方法
具体例：ペットボトルを化学的に分解し、原料に戻して再度PET樹脂にする
- **サーマルリサイクル**
焼却時に発生する「熱エネルギー」を回収・利用する方法。石炭・石油などの資源の消費量を削減できるのはもちろん、通常のリサイクルが難しい廃棄物であっても、単なる焼却処理にとどまらない活用を可能とする。さらに廃棄物の体積自体も減らせるため、限りある埋立処分場のスペースを延命できる
具体例：製紙メーカーのポイラーや温水プールの発電などを稼働させる固形燃料として、石油石炭に代わって利用される

ここまで、今回の新法施行によってより重視されるようになる、リサイクルとその種類についてお話してきました。この法律によって、今後市場ニーズが大きく変化していく可能性もあると思います。多くの企業は、さまざまな対応を迫られるかもしれません。しかし、一方でそこには大きなビジネスチャンスがあるとも言えるでしょう。こうした**世の中の変化にいち早く対応し、先手を打っていく「スピード感」**こそが、これからの**企業経営に必要不可欠なもの**になってくるのではないのでしょうか。では次に、より具体的な事例として、福岡県の出力会社・フジアートの取り組みをインタビュー形式で紹介したいと思います。同県のパッケージメーカー・エーシーシステムサービスが開発したマテリアルリサイクル可能な製品「Recoボード」を、業界でいち早く取り扱っている企業です。

フジアート株式会社 代表者インタビュー

狩野健氏
フジアート
代表取締役



——貴社の仕事内容を教えてください

各種ワイドフォーマット IJP と加工機をそろえ、ターボリン出力と縫製を主な業務とする出力・加工メーカーです。

——SDGsについてはどのような取り組みをされていますか？

当社の主力商品である横断幕やパネル類は、原則短～中期で利用され、そのまま廃棄処分されるケースが多く、環境に大きな負荷をかけてしまっています。そのため当社では、素材メーカーや仕入れ先と連携して環境配慮型の製品開発に注力。SDGsで言えば、「12. つくる責任 つかう責任」に対して強い意識を持っています。

——では、貴社が活用している Reco ボードとは、どんな製品なのでしょう？

「Reco ボード」は、100%マテリアルリサイクルができると言われているスチレンパネルです。従来のパネルはポリスチレンと合紙でつくられていたため、再利用するには紙を分離させる必要がありました。しかし、Reco ボードは紙や粘着剤を使用せず、全てポリスチレンでできているため完全なリサイクルが可能です。

近年、環境配慮型の素材は業界でも増えてきていますが、ここまで再利用し切れる製品は国内唯一ではないでしょうか。展示会場や売り場の廃棄物を減らし、循環型社会の実現に貢献しています。

——Reco ボードのリサイクル方法についてもう少し詳しく教えてください

ユーザーから当社に使用済み Reco ボードを送ってもらい、それを製造元の工場へまとめて戻しています。工場ではクラッシュして再原料化された後、ボードとして再生されます。注意点として、溶剤や UV インクで Reco ボードに出力してしまうと、インクが溶け切らず、リサイクルできなくなってしまいます。

当社では、リサイクルに影響しないことを確認できた日本 HP 社の最新型ラテックスプリンター「HP Latex R1000 Plus」を使ってダイレクト出力、高速出力が可能な大型機なので、従来のパネル制作と変わらない納期で対応できています。



さまざまな POP 装飾にかつようできる「Reco ボード」。従来のスチレンパネルと違って紙を使用していないため、耐久性にも優れた商品となっている

——どのようなユーザーからの依頼が多いですか？

環境問題への意識が高い大手企業や、アパレル業界からの案件は多いですね。店頭販促用のボードで使用され、リピートにもつながっています。

——Reco ボードの今後の展開について教えてください

全国的にはまだ知られていない製品なので、まずは Reco ボードの認知度を高めていきたいです。これからは、SDGs や脱炭素のニーズがより高まっていくと思います。業界全体でこれらの製品を知っていき、展示会や販促で使われる全てのパネルが当たり前のようにリサイクルされる時代になってほしいと思います。そのためにも、全国の同業他社とどんどん協力体制を敷いていきたいですね。当社の工場にも興味を持ってくれる人がいれば、いつでも来てもらいたいです。

SDGs や脱炭素に関する営業研修、リサイクル可能な環境配慮型の看板資材やサービス開発についてのご相談は下記までお気軽にご連絡ください。

▼株式会社フジテックス サプライカンパニー サインディスプレイ事業部

0120-522-664

フジアートや「Reco ボード」に関するお問合せはこちら

▼フジアート株式会社 企画室
メール：info@fujii-art.biz
電話：092-963-2307 (平日 9:00 ~ 18:00)